

2018年11月

第98号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

本庶佑特別教授、ノーベル賞（生理学・医学賞）受賞

2018年のノーベル賞の発表があり、本庶佑京都大学特別教授が生理学・医学賞を米テキサス大学ジェームズ・アリソン教授とともに受賞することに決定した。

日本人の受賞者は昨年のも文学賞のカズオ・イシグロ氏を含めて27人となり、国別受賞者は米国が断トツで261人、2位英国79人、3位ドイツ69人、日本は5位となっている。

今回の受賞理由は「免疫抑制の阻害によるがん治療法の発見」となっているが、これまでがんの三大療法として「外科手術」「抗がん剤治療」「放射線治療」が主流を占め免疫療法は懐疑的な目で見られてきた。

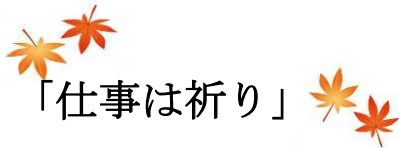
これまでの免疫療法は主として「体内の異物を攻撃する免疫の働きを利用した治療法」となっていたが効果が限定的で実用化が進んでいなかった。

これに対し、本庶氏らが新たに発見し取り組んだのはこれまでの発想とは全く異なり「PD-1」という免疫細胞にがん細胞表面にある特定のタンパク質が付着することによって免疫細胞の働きにブレーキがかかっていることを突き止め、がん細胞と免疫細胞がくっつくのを別の物質で邪魔すれば、免疫細胞ががん細胞を攻撃する本来の働きをするのではないかと考えた。

この仕組みを生かした治療薬が、小野薬品工業と米製薬会社ブリストル・マイヤーズスクイブと共同開発したがん治療薬「オプジーボ」（一般名「ニボルマブ」）を2014年に発売した。難治性がんの悪性黒色腫（メラノーマ）や肺がん治療薬として使われ多くの患者に光明をもたらした。

オプジーボは「夢の薬」と言われているが発売当初、薬価は1瓶（100mg）約73万円、仮に1年間使用すると3000万円以上かかる計算となり、これでは薬価が医療費を圧迫するとして「亡国の薬」と呼ばれた。今年11月には100mg17万円程度にまで低下する予定となっている。ちなみに保険適用外であれば全額自己負担となるが、高額療養費制度を使えるのであれば1ヶ月9万円程度で済む計算となる。「オプジーボ」に代表されるがん免疫薬市場は2017年1兆円、2025年には5兆円規模まで拡大するものとみられている。

本庶教授はインタビューの中でゴルフを週2回以上プレー・阪神タイガースの大ファンなど意外な一面を披露。「基礎研究にもっとばらまくべきだ」と述べるとともに、「何が正しいか何が重要かわからない」「たくさんの山を踏破して、そこに何かがあるか理解した上で、どの山が本当に重要かを調べる」「基礎研究では1000の研究でも3つも当たらない世界。それでも研究を積み重ねていかなければ立ち遅れる」と現状を危惧する。ノーベル賞の受賞賞金も若い科学者の育成のため基金として活用する計画となっている。



「仕事は祈り」

(平澤 興 語録)

仕事は祈りであるということは、自らの最善を尽くして、それ以上は神に祈ることである。

この気持ちに徹すれば、いつも楽しく仕事が出来、たとえ仕事の上に、一時的にいろいろの波があっても、大局的には必ず仕事は順調に進み、しまいには楽しさのなかで、仕事が仕事を導いてくれるようになる。

人生に望ましいのは失敗や困難がないということではなく、決してそれに敗けない、ということである。

仕事は祈りである。仕事は人生を内容づけ、価値付けるもので、人生の目的そのものともいわれよう。

目標がなければ、忍耐がない。

目標がないと何事も成し得ない。

目標のないものは、病気をもなおせぬ。

苦勞しても目標を持っている間は、人間が光っている。

ご苦勞であったと、しみじみと人生を感じる。成功だけではない。

失敗もあったが、皆過去の経験を将来に生かさねば本当ではない。

つまらぬ経験はない。人生に無駄なことはない。ことによく考える人には無駄がない。

成功は成功、失敗は失敗であるが、失敗のマイナスを持たぬ人には成長はない。失敗はむしろ自分を知るために必要な材料である。

過去の経験は今日、明日の土台となる。それは伸びるためのものである。

困難に直面することは自らを如何に生かすかのチャンスである。

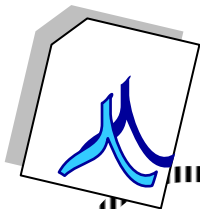
ここに人間無限の可能性のスタートがある。

不幸は人間を苦しめるというが、よく考えてみると、人間を苦しめるのは不幸そのものではなく、不幸だと思うその考え方自体である。

人からほめられなくても、自分が自分に感謝する。

君がおらぬと、周囲が困るような人になりなさい。

『生きよう今日も喜んで』より



貝原 益軒 (江戸時代の本草学者、儒学者)

1630年12月17日(寛永7年)	福岡藩士、黒田藩の祐筆・貝原寛斎の5男として生まれる。名は篤信、通称久兵衛。
1648年(慶安元年)	18歳で福岡藩に仕えたが1650年2代藩主黒田忠之の怒りに触れ7年間の浪人生活を送る。
1656年(明暦2年)	27歳。3代藩主光之に許され、藩医として帰藩。
1657年(明暦3年)	藩費で京都留学。本草学や朱子学を学ぶ。
1664年	35歳。150石の知行を得、藩内で朱子学の講義や、朝鮮通信使の対応、佐賀藩との境界問題解決に奔走。 藩命により「黒田家譜」を編纂。 また、藩内をくまなく歩き回り「筑前国続風土記」を編纂する。 70歳で役を退き著述業に専念。 主な著書に「大和本草」、教育書の「養生訓」、思想書として「自娛集」・「慎思録」・「大擬録」、紀行文の「和州巡覧記」などがあり、著書は生涯に60部270余巻に及ぶ。
1714年10月5日(正徳4年)	死去。享年84歳。
1911年6月1日(明治44年)	贈正四位。

オススメのBOOK



『奇跡の四国遍路』

著者 黛 まどか 中公新書ラクレ

著者は、50代半ばに差し掛かった俳人。母の大病をきっかけとして四国八十八カ所霊場を一度に巡る「通し打ち」に挑んだ。

以前、スペインのサンティアゴ巡礼道800キロを歩いたが今回は1400キロの道のりだ。

雨は大変、晴れてもアスファルトの照り返し、遍路転がしと言われる難所やアップダウン。膝の靭帯炎症。思いのほか難行苦行。

西行や芭蕉等も苦勞して旅をした。地元の人たちの温かい「お接待」に支えられ無事満願となった。「また行きたい、やみつきになりそうだ」



自動車保険に「弁護士費用特約」があると…

ここが知りたい！「弁護士費用特約」のQ&A

Q自家用車が停車中に他人の車に追突されました。ケガはありませんでしたがいくら請求できますか？

A修理費用相当額と修理中の代車費用を請求することができます。

Q車の損傷がひどかったのを、買い替えしたいのですが、同じ車を買って替える費用を請求できますか？

A修理できない場合や、修理は出来ても修理費用が極めて高くなってしまい経済的に見合わない場合（全損）でも、事故当時の時価相当額に登録費用など買い替え諸費用を含めた金額の請求しか認められません。

Q車を処分する場合、廃車費用はどうなりますか？

Aその費用も損害として請求できます。一方、事故車を売却出来た場合は、損害が少なかったことになるので、売却代金は損害から引かれることとなります。

Q修理は可能ですが、購入したばかりの高級車なのに評価額が下がってしまうのではないかと心配です。

A車の骨格に損傷が及んでいるなど事故歴があることで評価額が下がってしまう場合には評価額の請求も認められることがあります。

Q評価額はどのように算定するのですか？

A決まった算定方法はありますが、修理費用に対する一定割合の金額や、日本自動車査定協会等の評価額の算定等が考慮されます。

Q加害者と話し合いをしていますが、すぐに解決しそうでありません。弁護士に示談交渉を依頼したいのですが、費用倒れになるのではと心配です。

A交通事故の場合、自動車の任意保険の弁護士費用特約を利用できる場合があります。交通事故でかかった弁護士費用（示談交渉にかかる費用、裁判にかかる費用等）を保険会社が負担してくれるものです。

Q弁護士費用特約が使えるかどうかの確認はどのようにするのですか？

A任意保険の特約として付いているので任意保険の会社に確認してください。

Q自分の事故車にかけていた任意保険には弁護士費用特約が付いていませんでした。

A家族が加入する保険や事故車以外の保険の特約が利用できる場合があるので他の保険も確認してみてください。

このように、相手に100%過失のある事故では保険会社は示談交渉することができません。自分で相手方（加害者）か相手の加入している保険会社と直接交渉することになります。弁護士費用特約を付帯することで自分に過失のあった場合も全てのやり取りを弁護士に任せることができますので、もしもこの時の不安を解消してくれるかもしれません。



酒田市山居倉庫

樹齢150年以上の榎36本の榎並木の色合いは絶景



【編集後記】

積水ハウスが70億円(63億円支払済み)の土地取引を巡ってだまし取られるという事件が発生した。

「地面師」グループ9人が逮捕され、主犯格とみられる人物が海外逃亡との報道がある。

この事件に関与した司法書士・弁護士・仲介業者など一様に「私も騙された」と述べているから始末に負えない。

売買予約で15億円が支払われ、5億円が現金・10億円が小切手と言われる。現金が飛び交う世界はなにか尋常ではない。大会社も群がる個人もそこには悪と欲望の塊が蠢いている。